

暗礁に乗り上げたむつ総合病院病棟建設計画

一部事務組合下北医療センター管理者の山本むつ市長は今月6日、工事発注に向けて3回目の入札を実施中でしたが、これを白紙にすると発表しました。事業費が当初の220%超の415億円となり、このまま建設を進めれば、むつ市の財政や病院経営に悪影響を及ぼす可能性が高いと判断し、現在行っている入札を中止したものです。ここにきて事業費の捻出が見通せないと判断したものとされます。しかし、この金額はすでに下北医療センター議会でも入札価格を想定した金額として承認が得られているであります。

この事業は当時の宮下市長(現知事)を中心に策定

されたものです。事業を引き継ぐ山本市長は資金調達のメドをもって医療センター議会へ諮っている筈でした。ここにきて、その資金調達メドに暗雲が立ち込めた要因は何なのかキチンと見極めることが重要です。

古くは原子力船母港、そして使用済み核燃料中間貯蔵施設と為政者の弁を借りれば国策にこれほど協力しながらの今回の対応、まさに宮下知事の神通力も色褪せたと言わざるを得ません。

今後は既存病棟の耐震改修や設計規模をゼロから見直など、あらゆる手法を再検討し 2025 年度の早い段階で方向性を示すとしています。

改修か規模縮小か焦点

事業費の膨張が続いているむつ総合病院(むつ市)の新病棟建設は、新たな財源確保が見通せない中、市政にとつて過大な負担になると「総合的に判断」(下北医療センター管理者の山本知也市長)し、現計画での事業推進を断念した。ゼロベースで始まる今後の検討では、耐震基準を満たしていない現在の一般病棟を耐震改修するのか、新病棟を縮小した形で建設するのかが焦点になる。

事業費の膨張は、新型コロナの流行、ロシアのウクライナ侵攻などに端を発した資材急騰や技術者・労働者の不足が大きく影響した。6日の記者会見で山本管理者は「当初は全く想定していなかった事態だった」と説明した。

建設主体となる下北医療センターは下北5市町村で構成する。財政規模はむつ市が最も大きい。同市は同病院などへの財政負担が重荷となり累積赤字を抱えた過去がある。財政力が低い町村もあり、事業費の膨張に伴い、むつ市の負担増が見込まれていた。

病院自体の経営も苦しく、2023年度に約3億円だった赤字額は、24年度は約9億円となる見込み。山本管理者は、新病棟への財政負担により「(市の)行政サービスが大きく停滞することが懸念された。財政を守ることを通じて市民を守る」ことが、今回の判断に至った大きな理由」と述べた。

(熊谷慎吉)

むつ総合病院新病棟建設事業の経緯

2016年7月	一般病棟(1977年建設)が耐震基準を満たしていないと診断
21年3月	基本構想・基本計画を策定。25年7月~26年3月の利用開始予定。概算事業費約162~187億円
22年3月	基本設計が完了。地上5階・地下1階。26年度中の利用開始を目指す。概算事業費約190億円
23年6月	実施設計が完了。地上6階・地下1階に。総事業費約262億円。利用開始は27年4月予定
9月	参加者なく入札不調。利用開始は「28年度以降」
24年6月	工事費などを再積算。総事業費約350億円。利用開始は28年度以降で「遅くとも30年度」
12月	一般競争入札参加者の入札額が予定価格を約59億円上回り不落到
25年1月	総事業費を再積算し約415億円に。入札を再公告
3月	入札中止を決定。現計画を白紙とし「既存病棟の耐震改修を含め、あらゆる手法を検討する」



県高校教育研究会公民科部会が浮島丸事件をテーマに研究会を田名部高校で開催されました 浮島丸の惨劇を風化させず戦争の記憶を地域から教材化をめざした取り組みです

2月21日（金）、標記の研究会が主催し田名部高校多目的室に高校教員 13 名、「浮島丸下北の会」から3名が参加し、開催されました。

研究会は関連映像の視聴、「浮島丸下北の会」村上準一氏の現地活動の経過と今後の課題についての講演、そして本研究会の仕掛人でもある小瑤史朗弘前大学教育学部教授が「戦争遺産の教材化に向けた意義と課題」についての講演が行われました。

講演終了後には総括会議なども行われました。



《寄稿》研究会に参加して…浮島丸下北の会 会長 村上 準一氏

昨年の浮島丸出港追悼集会に参加をされた弘前大の小瑤先生の指導により、2月21日（金）に下北地域の社会科（地歴公民科）の先生方で「浮島丸事件」についての学習会を行いました。できれば教材化を目指したい、という構想があるようです。

その際に「浮島丸下北の会」に関わる話をしてほしい！との連絡があったのです。皆さんに大変お世話になっていきますことから、「私の話で良かったら！」と承諾をして、私なりに必死に準備に取り掛かりました。そして、資料を作り学習会に臨みました。高校の先生方13名、小瑤先生、私どもの会員3名計17名の参加で盛り上がりました。小瑤先生の「教材化」に関わる質問が多く出され、時間オーバーの状態にな

り、関係者で今後のことを相談するようです。成り行きが楽しみです。

学習会の後に、先生方は反省会をやりましたのでそこで話し合われたことと思います。残念ながら諸事情で私は参加できませんでした。やはり「集う」ことの大切さを感じる1日でした。学習会の資料作りをしながら、また、いただいた資料を整理しながら「浮島丸」は現代を先取りしたような『船』だということを改めて思い返しています。



村上会長の講演資料より抜粋

《ポイント.1》「浮島丸事件」についてこれからも解明すべき諸問題点

- ① 8月15日終戦直後（1週間後）の出港はなぜか？※他地域からの韓国への帰国は9月になってから
- ② 大湊港出港時より「舞鶴港に向かう」の情報が飛び交ったのはなぜか？
- ③ 蝕雷か自爆か？
- ④ 沈没事故後6週間を経て事実を曲げて発表したのはなぜか？
- ⑤ 1950年3月、第1次浮島丸引き上げ作業開始、沈没原因の隠蔽目的ではなかったのか？
- ⑥ なぜ9年間も海底に放置したままだったのか？
- ⑦ 最近になり、不存在とされていた乗船者名簿の一部存在が報じられた経緯と事情。
- ⑧ 浮島丸訴訟※国が安全配慮義務を負う雇用契約などは存在せず、法的責任はないとして謝罪請求却下
- ⑨ 浮島丸には、三沢飛行場、上北鉱山、十和田発電所、北海道からの労働者が乗船、どのような連絡体制だったのか？どうやって大湊まで来たのか？

《ポイント.2》今後の課題～戦後100年に向けて

- ① 本年10月に北海道・東北地区退職教職員の学習会開催予定※講師 西舘崇氏（前橋国際大学准教授）
- ② 「碑」の建設※浮島丸の出港地点に立ちたい！が訪問者の一声です。
- ③ 案内板の充実
- ④ 学び、調べ、真実を伝える
- ⑤ 「戦争する国づくり」軍拡化が急ピッチです。大型弾薬庫の建設、横須賀地方体への移管、「アメリカの言いなり！」からの脱皮が急務※憲法9条を生かした取り組みの強化を！



第40回 4・9反核燃の日全国集会

日時：2025年4月5日 14時～

会場：青森市文化会館5階会議室



フクシマ事故から 14 年

2025 さようなら原発核燃 3・11 青森集会に 370 名が参加！

3月9日(日)、青森市文化会館大会議室に370名の県内からの参加者を得て午後0時30分より開催されました。

今年の集会メインの特別講演には元京都大学助教で原子力工学者として高名な小出裕章氏を迎え「六ヶ所再処理工場の被曝と福島原発放射能汚染水」と題した講演でした。

また、特別報告としてむつ市から栗橋が参加し、むつ中間貯蔵施設の現状と杜撰な27年度以降の搬入計画などについてその問題点を訴えました。

その後の集会では県内からは大間の「あさこハウス」の熊谷厚子さん、六ヶ所村の「花とハーブの里」の菊川慶子さん、そして県外からも多くの反原発団体のリーダーが参加、それぞれ短い時間でしたが連帯のあいさつがありました。また県内の各政党（立憲民主、れいわ、共産、社民）からもそれぞれフクシマを風化させない取り組みの重要性が訴えられました。

集会終了後は青森市内をデモ行進し、終了地点で青森県庁包囲行動を行い終了しました。



講演中の小出氏

【小出氏の講演の基調】

① 国は常に嘘をつく

嘘がバレれば「想定外」！

もともと原発は膨大な危険を抱えている。

原子力推進派は多重な安全装置を付けるので、原発に限って絶対に大事故は起こらないと嘘をついた。

でも、彼らも万一の事故が怖かったので、原発を都会に作らず過疎地に押し付けた。そして、フクシマ事故は事実として起きた。

嘘をついた彼らは謝罪もしないまま「想定外」といって責任を逃れた。

原発が「安全」だとは言えなくなったし、それまでの「安全基準」は事実によって否定されたため、彼らは今度は「新規制基準」を作った。

ただし、「新規制基準」は「安全基準」ではなく、基準に合格しても「安全」だとは言わないと規制委員会が言っている。それでも政治の場に行くと「新規制基準」への適合が安全の保証へとすり替えられる。



「事故発生で膨大被害」
青森の反核集会で講演

市民団体「なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク」は9日、青森市のリンクステーションホール青森で「さようなら原発・核燃3・11青森集会」を開いた。元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏が「六ヶ所再処理工場の被曝」と題して講演した。写真

小出氏は、東京電力福島第1原発処理水の海洋放出について「自分にできないからと言って、放射能を含んだ水を海に流してはいけない。タンクの増設など、できることは山ほどある」と主張した。

その上で小出氏は「六ヶ所再処理工場は原発に比べて膨大な放射性物質を抱えている、破局的な事故が起きれば膨大な被害が起きる」と述べた。

集会には約370人（主催者発表）が参加。県内の原子力施設の廃止に向けた決議を採択し、市中心部でデモ行進も行った。

（永野悠太）

② 「原子力」にしがみつくと三悪

《国》「原子力」を平和利用と詐称しながら、核兵器保有能力をつけることを目的としてきた。

《経済界》原発を作る時に大儲け。事故が起きれば「除染」と称して大儲け。その後は「復興」と称して大儲け。福島原発事故が起き、日本の年間国家財政のすべてを使って足りないほどの被害が生じた。しかし、誰一人として責任をとらないし、会社も潰れない。これからもカネ儲けをしたい。

《官僚》経産省を中心に原子力を進めた。フクシマ事故で原発の安全神話は崩壊、六ヶ所再処理工場の稼働すら危うく、「核燃料サイクル」などできない。それでも、再処理工場の稼働を断念するというと原子力政策全体が崩壊する。政策の継続性などと言い訳し、いつまでも続けようとする。

むつ市議会第 263 回定例会

第 263 回定例会は 2 月 18 日から 3 月 14 日まで開催され、新年度一般会計予算などが採択されました。一般質問は 2 月 27～3 月 3 日までの 3 日間、12 名の議員が登壇しました。（詳細は下段参照）

一般質問では大畑地区にある「下北自然の家」が利用者減や老朽化のため、来年 3 月で閉鎖されることが判明しました。また、中学校部活動から移行した、市内横断型の部活動、いわゆる「むつ☆かつ」を下北地域全域に広げることや取り扱う部活動の種目も拡大する方向で検討していることがわかりました。

《杉浦議員の質問趣旨》

① 危機に瀕している陸奥湾内のホタテ養殖事業に対して市としてどのような対応を考えているのか。

② むつ市の防災行政無線制度のデジタル化移行に伴いスマホ活用で対応するという大きな方向転換が示されているが、これらについていけない高齢者などへの対策は十分だと考えるのか。

③ 脇野沢海域でのサーモン養殖事業の推移と今後の方向性をどう見ているのか。

いずれの質問にも明確な具体策は示されず、杉浦議員側から湾内の海底耕耘などで養殖環境の改善などにもしっかりと組むことを要望、また、防災無線については津波対策に特化し海岸地域に特定した仕組みとして、その他は主にスマホによる情報提供をメインとするとの回答であり、杉浦議員側からはスマホ中心では高齢者を中心に情報難民が発生するリスクをなくする方策を求めました。また、サーモン養殖事業は順調に推移しており、将来的には 4 千トン程度の水揚げを予定していることが判りました。

一方、杉浦弘樹議員（無所属）は脇野沢・九艘泊沖で日本サーモンファームが取り組むサーモン養殖について質問した。伊藤大治郎産業政策部長は、昨年 12 月にいけす 1 基に種苗魚が放され、本格的に養殖が始まったと説明。今年 6、7 月ごろに約 100 トンの水揚げが見込まれているとし、「将来的にはいけす 16 基、生産能力は 4 千トンになると聞いている」と述べた。



3/4 東奥日報



◇佐藤武議員（無所属） 除雪への苦情や要望はどの程度あるか。

▷木下尚一郎都市整備部長 本年度は現時点で苦情や要望が 359 件あった。主な内容は、除雪出動の要望が 253 件、寄せ雪に関する苦情や要望が 34 件、物損に関するものが 32 件となっている。



◇高橋征志議員（無所属） 保護者の私費で学校備品を購入していることをどう考える。

▷阿部謙一教育長 学校徴収金の一部が物品購入に充てられ、学校に寄贈されていることは、より充実した学校環境を実現するための自主的取り組みとして尊重すべきだ。



◇櫻田秀夫議員（公明・自由） デマンド型乗り合いタクシーの利用状況は。

▷角本政策推進部長 本年度は 1 月末時点で大畑地区が 894 人、川内地区は 401 人が利用した。75 歳以上が多く、利用目的は通院やスーパーへの買い物と推定される。



◇浅利竹二郎議員（自民ク） 今冬の豪雪の教訓は。

▷畑山勝利危機管理監 道路交通網の確保に課題がある。主要道路が国道 279 号と 338 号しかなく、寸断された場合は市を含む下北地域一帯が孤立化し、支援に時間を要することが危惧される。

◇東健而議員（市誠ク）

旧町村の活性化策を示せ。

▷山本知也市長 住民の意見を取り入れた持続可能な地域を目指す。川内地区は地域おこし協力隊 4 人に加え、集落支援員を新たに配置し、大畑、脇野沢地区でも地域おこし協力隊を活用していく。

◇住吉年広議員（公明・自由）

避難所環境改善に向けた具体的な取り組みは。

▷山本市長 交通アクセスの脆弱（ぜいじゃく）性が課題。避難生活の長期化に備え、トイレや食事環境は一定程度整備が進んでいるため、就寝環境や冷暖房などの整備に取り組んでいく。

◇佐藤広政議員（市誠ク）

海自大湊地方隊の統合の影響は。

▷角本力政策推進部長 既存護衛艦 1 隻が横須賀へ行き、新型護衛艦が新たに配備される。省人化で乗組員は減るが、拠点機能強化や情報機能充実による人員増で、定員は維持されると聞いている。

◇岡崎健吾議員（陸奥未来）

市職員の兼業の状況は。

▷吉田由佳子総務部長 職務遂行に支障がなく、特別な利害関係がないことなどを要件に許可している。本年度は 2 月 25 日現在で 15 件許可しており、主に「むつ☆かつ」の指導に係るもの。



◇杉浦弘樹議員（無所属） 脇野沢地区で開催した焼き干し体験会の目的と効果は。

▷山本知也市長 首都圏の高級料理店から引き合いがある特産品だが、22 年度を最後に生産が途絶えている。体験会をきっかけに事業継承の可能性を検討していく。



◇佐賀英生議員（市誠ク） 漁業振興に向けた市主導の研究会を設置すべきだ。



▷山本市長 市の対策だけで漁獲が回復しないものもあるが、研究者や国、県などと連携して地域の水産をどうすれば守って協議体のようなものを検討したい。



◇富岡直哉議員（陸奥未来） 中学校部活の地域クラブ移行で、教員の長時間労働の改善はみられたか。



▷阿部謙一教育長 20 年度の残業時間は 75.1 時間で、24 年度は 50.3 時間に縮減された。23、24 年度と 2 カ年にわたって 15 時間程度短くなっている。



◇工藤祥子議員（無所属） 加齢による補聴器購入費を助成すべきだ。



▷斎藤洋一健康福祉部長 近年は難聴が認知症発症に関係しているとの研究結果もある。65 歳以上の軽度、中等度の難聴者を対象とした支援制度の調査研究に努めていく。



むつ市議会では、開かれた議会の推進、また、議場での傍聴が困難な皆さんに対して、YouTube により議会の様子をインターネット上で配信いたします。ご自宅や職場にしながら映像でご覧いただけるようになりました。

大間、風間浦に続き今度は東通村長選
この選挙も一騎打ちの様相です

東通村長選告示まで1週間

現新一騎打ちへ



畑中稔朗氏



奥島貞一氏

任期満了に伴う東通村長選は、18日の告示まで1週間となった。いずれも無所属で、再選を目指す現職の畑中稔朗氏(62)と、村議で新人の奥島貞一氏(69)が立候補を表明しており、一騎打ちの公算が大きい。投開票は23日。

村職員だった畑中氏は、2021年に7選を目指した越善靖夫前村長を破り、初当選。住民の声を直接聞く円卓会議の開催や、高齢

者の見守りも行う移動販売車を導入した。公約として屋内遊戯施設の整備や、1次産業の販路拡大支援、避難所の充実などを掲げる。農業を営む奥島氏は1987年の村議選で初当選し、現在10期目。4期目には村議会議長を務めた。村民による村づくりを実現する」と出馬を決意し、稼げる1次産業の実現が公約の柱。子育て・教育の充実や福祉・高齢者支援なども掲げ、村政の刷新を訴える。奥島氏を除く村議13人のうち、6人が畑中氏、7人が奥島氏を支援する。それぞれ事務所開きを終えており、臨戦態勢に突入している。

3月1日現在の選挙人名簿登録者数は4904人(男2578人、女2326人)。

(佐藤航)

↑3/11 デーリー東北

義務教育学校給食が未実施の大間町に待望の給食センターです

↓2/26 東奥日報

大間の給食センター
小学校裏に建設方針

町が報告

大間町は25日、町内に新設を計画している(仮称)大間町学校給食センターについて、大間小学校の校舎裏に建設する方針を明らかにした。同日開かれた町議会全員協議会で、町教育委員会教育課の担当者が報告した。

給食センターの候補地を巡っては、大間小のほか、大間中、旧奥戸中学校校舎、大間町旧車庫の4カ所で検討を重ねてきた。

町は輸送コストなど利便性を総合的に考慮して大間小とした。現時点では、町内3小中学校と風間浦村の風間浦小、風間浦中の計5校を対象に、1日最大400食の提供を見込んでいる。

給食センターの面積は約550平方メートルで、建造費は概算で7億9166万円。2025年度以降、実施設計を行い、26年度に着工、27年度の利用開始を目指す。

(川越真也)

青森空港と青森港について、国が防衛体制の強化の一環として自衛隊と海上保安庁が円滑に利用できるようにする「特定利用空港・港湾」に指定することを検討していることが20日に開かれた県議会常任委員会のやりとりで分かりました。

こうしたことを踏まえ、社民党青森県連や県平和労組会議が青森県へ申し入れたものです。

←2/28 デーリー東北

特定利用空港・港湾
指定拒否を申し入れ

青森県に社民党県連など

防災対応や防衛体制強化の一環として、自衛隊や海上保安庁が平時から使用できる国の「特定利用空港・港湾」に青森空港と青森港が検討されていることを巡り、社民党県連(今村修代表)と県平和推進労働組合(阿部一久議長)は27日、県民の安全安心を損なうとして、指定を拒否するよう県に求めた。

特定利用空港・港湾は、自衛隊と海上保安庁の航空機や艦船が訓練などで利用できる。県によると米軍の利用はない。

要望書では米軍三沢基地やむつ市の海上自衛隊大湊基地などが県内に立地し、青森空港や青森港以外に利用できる場所が既にあると指摘。指定拒否と共に県議

会や利用者、地域住民に対する丁寧な説明も求めた。県港湾空港課の橋本公学課長に要望書を手渡した阿部議長は「有事の場合は攻撃対象になりかねず、県民が危険にさらされる。国の曖昧な言い回しを良しとして同意してはならない」と話した。(三浦千尋)

橋本公学課長(右)に
要望書を手渡す阿部一
久議長

27日、青森県庁



大間原発開始時期 14年連続で「未定」 電源開発 25年度供給計画

電源開発(Jパワー)は28日、2025年度の供給計画を発表し、建設中の大間原発(大間町)について、使用開始時期を14年連続で「未定」とした。同社は30年度の運転開始を目指しているが、原子力規制委による新規制基準への適合性審査が長期化

し、審査合格や工事再開の時期は見通せていない。大間原発からの送電に用いる「大間幹線」(61km)の使用開始時期も14年連続で「未定」とした。

(3/1 デーリー東北)

《風間浦のろうそく岩》

そのむかし、下北の易国間にはじめて家を建てたのが大間町の五郎八である。五郎八は嫁と小さな舟をもらって、ここに分家した。

五郎八は、腕のいい漁師であった。しかし、子どもがなかった。そこで夫婦は毎朝、海に向かって「海の神さま、おらたちに子どもを授けてください」とお祈りした。

やがて男の子が生まれた。海の神さまからのお授けなので、海太郎と名づけた。

海太郎が、四つの時であった。その日は、朝から東風が吹いていた。海の波も白い牙をみせ、もう、午後からは大シケになることは分かりきっていた。このような時、五郎八は海へ舟を出そうとした。「やめてくれろ。シケになるのは分かってるだ。あんたが死んだら、おらたちはどうなるだ！」妻のハナは必死に夫を引留めた。

しかし、五郎八は、「舟を新しくするのに、大間の金貸しから金を借りたべ。その借金おさめるのが明日だ。だども、まだ少し足りねえ。今日一稼ぎすれば、借金はなくなる。シケは午後からだべ。なあに、おらは午前中に戻ってく

るすけ」と、強引に舟を出した。

と、一時間もしないうちに、風はごうごうと強まり、雲は怪物のように海の上を飛んでゆく。波は大きな牙をむきはじめた。

「おっ父！おっ父！」妻のハナは海へ向って叫んだ。しかし強い風は、叫んでいる声をたちまち吹き消してしまう。あたりは、夜のように暗くなっていった。

その時、「おっ母、山さ行って焚火するべ」と、海太郎がいった。「そうすけ、高い所で焚火すれば、おっ父から見えるだな」

母と子は、嵐の中を後ろの急な山へ登りはじめた。山のてっぺんには、まるで太い棒を突き立てたように、高い岩が立っていた。母と子は、この大岩の下に枯れ枝を集めて火をつけようとした。

ぱちぱちと火がついたかと思うと、もう強い風で吹き消されてしまう。強い風は、枯れ枝を吹き飛ばしてしまった。「あっ、たきぎが飛ばされてしまった！」その時、海太郎は大声で叫んだ。「海の神さま！おらのおっ父ば助けてくれろ！」

と、なんとしたことだろう。高

い大岩のてっぺんが、まるでろうそくの灯のように明るく光りはじめた。五郎八は、暗い海の上で明るい光をみた。「ああ、あれは二人が、かがり火を焚いてくれてるんだ！」五郎八は、その明かりに向って、力の限り舟を漕いだ。

この時から、この岩は、シケになると決まろうそくの灯のように光って、舟を陸へ導くのだという。村の人は「ろうそく岩」と呼び、今も立石大明神とあがめているという話である。



大明神があるのは、桑畑地区の山の中です。海沿いの国道からは見えず桑畑漁港の防波堤の先端に立ってようやく拝める場所にあります

《大平のカッパの子》

下北のむつ市の大平町のそばに大荒川と小荒川という二つの川が並ぶように流れています。

この川の上流に、昔、母と娘が住んでいたそうです。娘が年ごろになったので、母親は『早くいいムコ様、みつければいいがなあ』と毎日思っていたそうです。

ある年のこと、隣村のお祭りに行った時から、この娘に恋人ができた。背の高い、きりっとした顔の大変良い若者だったそうです。

若者は毎晩のように娘の家へやってきた。娘の家へ来る時は、必

ずアユやヤマメ、イワナなどの川魚を一杯持って来るもので、『あの若者は、川で魚を採って暮らしているんだな。それにしても、なかなかの働き者のようだ。ぜひ、ムコ様になってくれればいいが』と、母親が思っているうちに、ぱったり、この若者が来なくなってしまった。

そのうちに、娘のお腹がだんだん大きくなって、ある日、赤ん坊を産んだそうです。可愛い顔の赤ん坊であつたけれども、髪はオカッパで、頭のてっぺんに皿があ

り、手指は四本で水かきがあつたもので、『これは、カッパの子だ。せば、あの若者はカッパであつたんだ』と思って、その子を川のほとりにおいてみたそうです。

すると、生まれてすぐの赤ん坊なのに、自分で川へ這って行って、ドボンと飛びこんで、いなくなってしまったそうです。

五月の節句に、屋根にヨモギとシヨウブを差しておくのは、家のなかにカッパが入って来ないように、オマジナイだといわれています。